

## 「シンガポール国立大学分析アジア哲学プログラム 参加報告書」

京都大学文学部3年 横野沙也

## ① 学習成果

今回の派遣プログラムへの参加によって、私は今まで恐怖感があった留学というものに一步踏み出すことができた。期間は2週間と短いものであったが、この2週間シンガポールで学びながら過ごせたということは自分にとって重要な意味を持つことになった。特に、カンファレンスというものに初めて参加し、少しではあるが発言することができたということは自信にもつながり、良い経験になったと思う。

しかし、授業や会話などが聞き取りづらかったり、なかなか英語で言いたいことが言えなかったりすることも多かったので、英語のリスニング能力、スピーキング能力をもっと向上させなければならないと考えた。

## ② 海外での経験

この派遣期間には主に、シンガポール国立大学及びYale NUSカレッジでの授業やカンファレンスへの出席、学生との交流などを行った。

授業に関しては、仏教についてのものや、1回生向けの哲学に関するものなどに参加した。後者は1回生向けの授業であったが、熱心な議論が行われており、私にとっても刺激になった。これらの授業を通して、シンガポールの大学ではどのような教育が行われているのかを垣間見ることができたと思う。4日間にわたって行われたカンファレンスについては、全部で3回ほどではあったが発言することができた。また、Yale NUSカレッジの学生と交流する機会が何度かあり、親睦を深めることができた。

## ③ プログラム内容

このプログラムにおける最も大きなイベントは、2月15日から2月18日にかけて行われたカンファレンスであった。このカンファレンスのテーマとなった文献は、Krishna Chandra Bhattacharyyaの'The Subject as Freedom'と西谷啓治の『宗教とは何か』である。15日にはBhattacharyya、16日には西谷を扱い、17日は両者の比較を行った。18日にはこのカンファレンスの将来への展望、例えばBhattacharyyaや西谷を扱うに当たって他にどのような文献を取り入れればよいか等について話した。

また、19日には応用哲学のワークショップに出席した。このワークショップでは、応用哲学の様々な内容についての発表が、パワーポイント等を用いてなされた。

それ以外の日はシンガポール国立大学やYale NUSカレッジで行われている授業に参加した。

## ④ 進路への影響

進路に関しては、私はこのプログラムに参加する前から大学院への進学を考えており、それは参加後の今でも変わっていない。しかし、今回一緒に派遣に参加した大学院生の人々やシンガポールの学生を見て、英語力や専門分野に関する知識、討論で発言する能力などを伸ばしていかなければならないということ強く意識させられた。つまり今回のプログラムへの参加は、これから大学院へ進むうえでの私の意識について影響を与えたのである。